



世界の各創造都市が丹波篠山市に集結！ ユネスコ創造都市ネットワーク丹波篠山市国際会議

丹波篠山市がユネスコ創造都市ネットワークに加盟して今年で10年。これを記念して、世界のクラフト&フォークアート分野の各創造都市を招待し、市内で3日間にわたり国際会議を開催しました。全体のコーディネーターを務めたのは、日本・アジアの創造都市の第一人者で大阪市立大学名誉教授の佐々木雅幸さん。会議には国内の創造都市に加え、海外から中国、韓国、オーストラリア、タイなど8カ国14の創造都市が参加しました。今回は、3日間の国際会議を写真とともに振り返ります。

問い合わせ 市長公室
☎552-6160



<テーマ> 日本の美しい農村、未来へ
<ゴール> 創造都市の文化を未来へつなぐ～若者や子どもたちが描く未来～

DAY 2 セッションテーマ 「クリエイティブツーリズムとアーティスト・イン・レジデンス (AIR)」



④丹波焼の郷めぐりでは、窯元の陶芸家と交流
⑤龍谷大学准教授の竹谷多賀子さん進行のもと、オーストラリア・バララット市の創造都市担当タラ・プールさん、タイ・チェンマイ市の陶芸家コモル・コンチャロエンさん、金沢市創造都市担当の川葉子さん、丹波篠山市 Satoyakuba の田林信哉さんらが、それぞれの市の創造的な文化振興の取り組みについて紹介
⑥「サト・デ・ナイトフィーバー」では、マグロの解体ショーが大盛り上がり

DAY 3 セッションテーマ 「日本の美しい農村、未来へ」



⑦市内の小学生による「丹波篠山子ども親善大使」が、篠山鳳鳴高等学校デカンショバンドの演奏でデカンショ踊りを披露
⑧窯元の親子が、今田小学校にある登り窯で毎年陶芸体験をしている様子や丹波焼の魅力について発表
⑨コーディネーターである佐々木さんの講演と、まちなみアートフェスティバル実行委員長の中西薫さん、丹波立杭陶磁器協同組合理事長の市野達也さんを交えたパネルディスカッション

「丹波篠山宣言」を採択

「持続可能な創造農村に向けて」

1. 伝統文化の次世代への継承と再創造
2. 古民家や窯元など歴史的文化資産を基盤にした創造的地域の形成
3. クリエイティブツーリズムやアーティストインレジデンス (AIR) による芸術文化の振興と人材育成
4. 工芸や特産物などの資源を活かした農村文化と経済の好循環
5. 創造農村と国内海外の創造都市交流によるユネスコ創造都市ネットワークの強化



DAY 1 セッションテーマ 「創造都市の文化を次世代につなぐ人材育成」



①韓国・ソウル市のジョン・ビョンホンさんによる講演「AI時代における文化資産の創造的継承：多様性と創造性の育成」
②神戸市KIITOの近藤健史さん、高松市のNPO法人アーキペラゴの三井文博さん、篠山チルドレンミュージアム館長の垣内敬造さんらによる、子どもたちがいきいきとする創造的な教育に関するパネルディスカッション
③河原町のまちなみアート「いらか」の視察

All days

丹波篠山市民センターで「創造都市紹介・世界の食卓」の展示



Welcome to TambaSasayama City!



特集
タウンレポート
HOI
情報ピックアップ
市政リーダー
インフォメーション
おでかけ相談
はぐくみ
街かどレポート
まちの話題

丹波の森づくりに取り組もう！

緑豊かな自然のもとに、古くからの特色ある伝統文化が受け継がれてきた丹波地域。この貴重な地域の財産を生かしながら、人と自然、人と人、人と社会が調和して共生する魅力と活力に満ちた地域づくりをめざす「丹波の森構想」のもとに、地元の皆さんによるさまざまな実践運動が展開されています。また、丹波篠山市は、この構想に沿って、農業や美しい景観、自然と文化を大切にしながらまちづくりを進め、今では地方創生の先駆けと評価されるようになりました。

今回は、「丹波の森構想」に基づいて取り組まれてきた丹波の森づくりとは、どのような取り組みなのかを改めてお知らせします。

問い合わせ 公益財団法人兵庫丹波の森協会 ☎0795-7310933



みんなで丹波の森づくり

「丹波の森宣言」って何？

1987(昭和62)年当時、丹波地域に高速道路が開通し、篠山口駅までJRの複線電化が予定されるなど、激な都市化の波が押し寄せ、開発が進むようになっていきました。そのような中、当時の貝原俊民兵庫県知事や霊長類学者の河合雅雄さんは「丹波は森の国、人と自然と文化」を大切にしたい地域づくり(丹波の森づくり)を進めようと「丹波の森構想」を提唱されました。

そして、同年にはこれらを契機に、丹波全域を「丹波の森」と称して、21世紀に向けた地域づくりをすすめるようと、丹波地域の住民で組織する「丹波の森10人委員会」や「100人委員会」で議論を重ね、「丹波の森1,000人大会」で「丹波の森宣言」(※1)を採択。2万を超える世帯が同意署名されました。

(※1) 丹波の森宣言

～人と自然と文化の調和した地域づくり～

丹波の自然と文化は、現在及び将来にわたる住民共有の財産であって、これを維持発展させることは私たちに課せられた重大な責務です。

今、私たちはこの責務を強く自覚し、お互いに力を合わせ、自然や文化を大切にしながら、これを生かした「丹波の森」づくりを、次のように進めることを宣言します。

1. 丹波の健全な発展をそこなうような自然破壊は行わず、森を大切に守り育てます。
2. 丹波の自然景観を大切にし、花と緑の美しい地域づくりを進めます。
3. 丹波の文化景観及び歴史的遺産を大切にし、個性豊かな地域文化を育てます。
4. 丹波の素朴さと人情を大切にし、安らぎと活力に満ちた地域づくりを進めます。

昭和63年9月1日

(※2) 丹波の森創造プラン

丹波の森づくりをどのように取り組むか分かりやすくするため、「丹波の森創造プラン」として整理しました。プランは、4つの宣言と18の項目で構成しています。
※内容についての詳細は右記2次元コードからご覧ください。



宣言1 丹波の健全な発展をそこなうような自然破壊は行わず、森を大切に守り育てます

- ①丹波らしい土地利用
- ②山を守り育てる
- ③川や水辺を守り育てる
- ④農地を守り育てる
- ⑤野生動植物と共生する

宣言2 丹波の自然景観を大切にし、花と緑の美しい地域づくりを進めます

- ⑥丹波らしい景観形成を進める
- ⑦自然を体感する
- ⑧丹波の景観を楽しむ
- ⑨花を飾りもてなす

宣言3 丹波の文化景観及び歴史的遺産を大切にし、個性豊かな地域文化を育てます

- ⑩文化歴史を大切にし、広く発信
- ⑪恐竜が生きた大地
- ⑫芸術・文化・スポーツを楽しむ

宣言4 丹波の素朴さと人情を大切にし、安らぎと活力に満ちた地域づくりを進めます

- ⑬もりびとになってふるさとを元気に
- ⑭丹波ブランドを育成
- ⑮丹波ファンを拡大、交流促進
- ⑯国際化に対応
- ⑰安心安全な地域づくり
- ⑱集落に暮らし、未来につなぐ

未来へつなぐ

「丹波の森創造プラン」

これまで「丹波の森宣言」に基づき、住民・事業者・行政が一体となって人と自然と文化が調和した地域づくりが進められてきました。その結果、今でも豊かな自然や農村環境、美しい景観、人々の営みや農業などが残っています。

しかし、時間の経過とともに丹波の森宣言の認知度が低下し、丹波の森づくりの理念を理解している方が減っています。そこで、あらためて丹波の森づくりとは、どのような取り組みなのかを分かりやすく示した「丹波の森創造プラン(※2)」を2024(令和6)年にまとめました。

「丹波の森」の地域づくりを未来につなぐため、この創造プランに基づき、丹波地域に暮らす皆さんで丹波の森づくりに取り組んでいきたいと思います。

(仮称) 丹波の森づくり推進検討委員を募集します

“丹波の森づくり”の理念を市民の皆さんと共有するとともに、条例化も含めたさまざまな方策を検討するため、検討委員を募集します。

- 任期 令和9年3月31日まで
- 定員 2人
- 資格 市内在住、在勤、活動または事業をしており、丹波の森づくり推進検討委員として、参画する意欲のある18歳以上の方(令和7年4月1日現在)
- 応募期間 10月24日(金)～11月25日(火)
- 応募方法 担当課に備え付けの申込書と小論文(800字程度、任意の様式)を直接、郵送、ファクシミリまたは電子メールにより提出。
- テーマ 「丹波の森づくりを進めるために」
- 報酬 4,000円/日
- 申し込み・問い合わせ 〒669-2397 丹波篠山市北新町41 創造都市課 企画調整係あて ☎552-5106/FAX 552-5665
- メール sozotoshi_div@city.sasayama.hyogo.jp